

諏訪湖クラブニュース

NO. 45 2025年10月

もくじ

- 所感 沖野 外輝夫
- 沖野 外輝夫先生の信毎賞受賞・米寿を祝う会
- 冊子「ヨシ原による水質の浄化に関する実験」
- 冊子「生態系に配慮した諏訪湖の水辺整備」
- 水の学習「うんち君の旅」水の循環・トイレから学ぶ
- オオワシ「グル」を介して国際親善です
- 岡谷郷土学習館 市民講座 諏訪湖の水生植物
- 諏訪湖スマートインターの供用開始
- スマートインターの交通量を調べてみました
- 岡谷郷土学習館 市民講座 諏訪湖の治水に繋がる釜口水門
- 能登半島地震から学ぶ地域防災
- 諏訪建設事務所歴代所長会議に沖野外輝夫先生をお呼びして開催
- 湖沼水環境保全に関する自治体連携（中海、宍道湖）
- 戦争中の昭和19年に発生した地震
- 理事会報告



諏訪地域の市街地で9月に多く見られるツマグロヒヨウモンのメス（メスの色彩が鮮やかなのは南国の毒をもつ蝶カバマダラに擬態して種の保存のため）

卷頭 所感

沖野外輝夫

令和7年10月2日に開催していただきました私、沖野の「第32回信毎賞受賞と米寿を祝う会」にご出席いただいた方々、そして祝辞をお送り下さった当クラブ会員の皆様、ありがとうございました。クラブニュースの場を借りて御礼申し上げます。

祝宴当日は70人もの方々がお忙しい中を私のために時間を割いて下さり、楽しいひと時をご一緒することができ、諏訪に移住してから52年の様々な出来事を思い出しました。会場は、諏訪湖の環境改善を目指して設立された「諏訪環境まちづくり懇談会」の初代会長藤原正男氏が当主をされていた諏訪の老舗旅館「布半」で開催させていただき、ご子息の藤原吉彦氏もご同席され一層感慨深い会となりました。そして、ご出席の皆様との懇談もひとしお思いで深い会とすことができました。お集まりいただいた方々全員のご紹介はできず失礼をしましたが、「信毎賞」応募の際にご推薦を頂きました、諏訪圏域6市町村首長の皆様方をはじめ、「まち懇」活動時の関係者、長野県諏訪建設事務所をはじめとする諏訪湖修復の関係者、諏訪湖環境研究センター、信州大学理学部諏訪臨湖実験所の教官諸氏、国際ソロプチミスト諏訪の皆様、八剣神社宮司宮坂清氏をはじめ、沖野が地区総代をさせていた際の同輩諸氏、そして今回の会を開催する中心として世話役を買っていただいた諏訪湖クラブの面々が出席者でした。ありがとうございました。

祝いの会当日の撮影は日独セミナー開催、そして「まち懇」設立当時から支援していただいた元長野日報記者、宮坂早苗氏にお願いしました。写真の一部は本クラブニュースにも一部掲載しております。ありがとうございました。



水辺のアザミにやってきたキアゲハ
とヒョウモン蝶

■ 沖野外輝夫先生の信毎賞受賞・米寿を祝う会に 72 名の方が参加

令和7年10月2日(木) 午後6時より、諏訪市「ぬのはん」にて沖野 外輝夫先生の信毎賞受賞・米寿を祝う会が開催され、金子ゆかり諏訪市長他 72名の方が参加されました。



小林聖仁さんの開式の辞



ソロプチミスト諏訪の二人から花束贈呈

式次第 敬称略

司会進行 高木 保夫

開式の辞 クラブ副会長 小林 聖仁

花束贈呈

ソロプチ河西 滋子→沖野 外輝夫先生

ソロプチ長田幸子↓沖野 富美子

謝辞 沖野 外輝夫 先生

来賓あいさつ 諏訪市長 金子 ゆかり

乾杯 岡谷市長 早出 一真

宴会

記念写真 2卓毎に写真撮影

スピーチ

平澤 幸雄/元諏訪建設事務所長

藤森 恵吉/諏訪湖漁業組合長

宮坂 清/八剣神社宮司

河西 滋子/ソロプチミスト諏訪

宮尾 哲雄/番組制作デレクター

小口 智徳/湖静連副会長

朴 虎東/信州大学教授

宮坂 静生/俳人、国文学者

締め 山田 勝文/前諏訪市長

万歳三唱



沖野外輝夫会長の謝辞



金子ゆかり諏訪市長の祝辞



早出一真岡谷市長 乾杯のご先唱



沖野 外輝夫先生を囲んで、卓「天竜、宮川」の皆様



沖野 外輝夫先生を囲んで、卓「六斗、横河」の皆様



沖野 外輝夫先生を囲んで、卓「千本木、塚間」の皆様



山田 勝文前諏訪市長の万歳三唱



ソロプチミスト諏訪の方たちと



祝賀会 信濃毎日新聞掲載記事

○返信ハガキのメッセージより

- ・受賞おめでとうございます。沖野さんが諏訪に移り住んでくださったことが諏訪と長野県と私たちの大きな財産を得た思いです。
- ・信毎賞の受賞心よりお喜び申し上げます。先日偶然にも見ましたテレビで県民が選んだ名所ランキングに諏訪湖が選ばれています。嬉しさとともにこれからも大切に守っていかなければならぬと思いました。今後もますます御健康でご活躍されることを心より祈念します。
- ・信毎賞の受賞おめでとうございます。長年の地（水）道なご努力の結果ですね。我々地元民の誇りでもあり、感謝の念に堪えません。今後もご指導ご鞭撻程よろしくお願ひします。
- ・長年きれいな諏訪湖への導きありがとうございます。浄化が地域の方々の理解と努力で進むよう一市民として頑張ります。
- ・沖野先生この度は誠におめでとうございます。これも沖野先生の人徳の賜物と思います。どうぞ今後もよろしくお願ひします。
- ・皆様の活躍が評価されたこと嬉しく思います。
- ・沖野先生おめでとうございます。先生の長年の真摯な取り組みと研究が評価され、周りにいる私たちの誇りです。嬉しい思い出いっぱいです。
- ・いつも素敵なお顔で皆を包み込んで下さる先生、本当におめでとうございます。
- ・この度沖野先生の「第32回信毎賞」の受賞、誠におめでとうございます。諏訪湖集水域の生態系研究一人者で「天竜川博士」の素晴らしいこれまでの功績に、心より拍手を送ります。これからもお身体を大切にされ、諏訪湖の研究にご尽力下さいますよう希望します。
- ・第32回信毎賞のご受賞誠におめでとうございます。上下水道の学習に関わり4年生の子供たちが大変お世話になりました。重ねてお礼申し上げます。
- ・沖野先生受賞おめでとうございます。「臭いだけだよ」近隣の者でさえ避けていた諏訪湖の浄化に半世紀あまりもご尽力下さり、諏訪に育った者として心から感謝致します。
- ・大変おめでとうございます。先生には日々ご教示頂いておりますことを心より感謝しております。末長いご活躍を祈念しております。
- ・私は47年前に当地に転居した時はアオコいっぱいの湖でした。よくぞここまで回復させて頂きました。今後もまだまだお役御免になりそうもないですね。
- ・沖野先生のこれまでご活躍にしっかり認められたことに本当にうれしく思います。地域の人間として心より感謝申し上げます。
- ・信毎賞受賞おめでとうございます。当日は政務があり一緒に祝いできず残念ですがご盛会をお祈り申し上げます。

■信毎賞受賞記念冊子「ヨシ原による水質の浄化に関する実験」会長 沖野外輝夫

平成5年から8年にかけて沖野外輝夫先生の指導のもとにヨシ原による水質の浄化に関する実験を行った。3か年に渡る本格的な実験は全国的にも注目された。

平成5年 ヨシ原実験圃場に関する資料収集及び実験計画立案

平成6年～8年 ヨシ原による水質浄化実験

場所 諏訪湖流域豊田終末処理場西側 敷地面積 3,500 m²

規模 幅 2.5mでジグザグの水路延長 1,430mに約 30 cm間隔

上川から採取したヨシを植栽



平成6年6月30日撮影



平成6年10月31日撮影

ヨシ原による水質の浄化に関する実験



見学台よりヨシ原実験圃場を望む

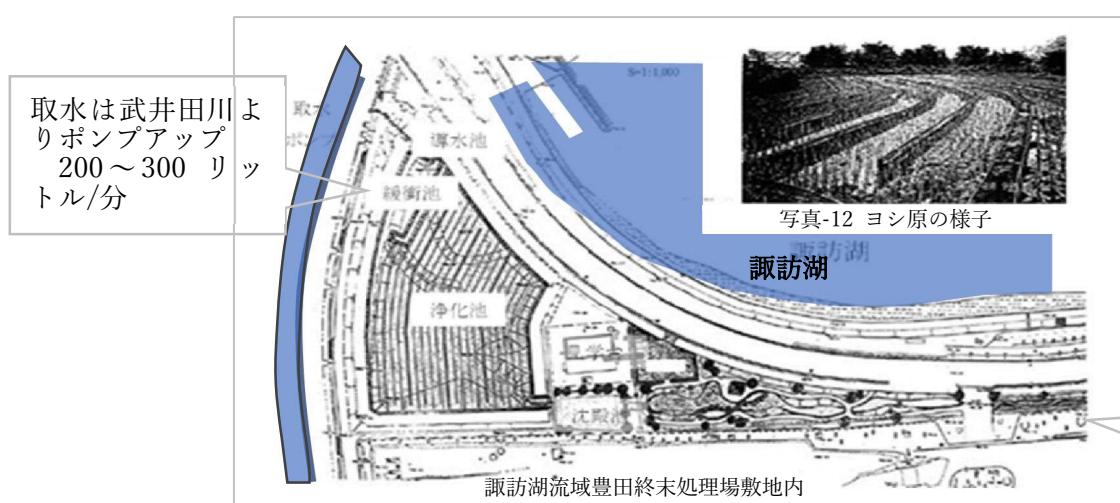
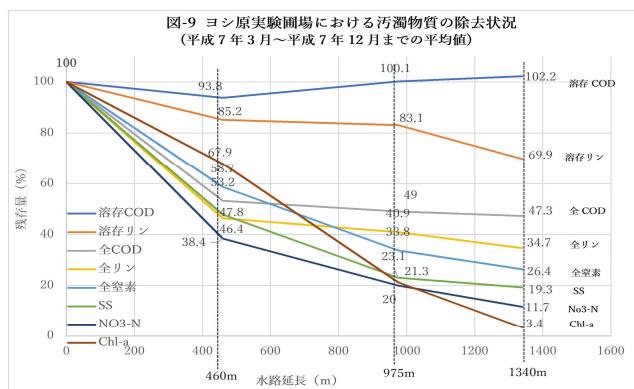


令和7年(2025年)8月
諏訪湖クラブ

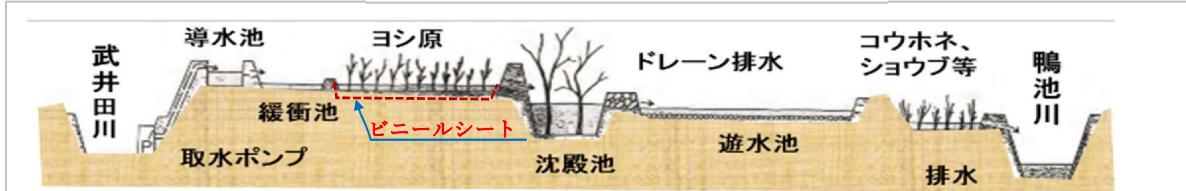
冊子の表紙

A4 サイズ・カラー 20 ページ 印刷 500 冊
内容

写真 ヨシ原実験圃場のヨシの生育状況
ヨシ原実験圃場の概要とヨシの植栽
ヨシ原実験圃場内での水質の変化
ヨシ原実験圃場の生物群集
ヨシの植え付け方法



ヨシ原実験圃場の計画平面図



ヨシ原実験圃場の計画断面図

■信毎賞受賞記念冊子「生態系に配慮した諏訪湖の水辺整備」 理事 八幡義雄

諏訪湖の水辺整備に関する経緯

昭和 42 年 長野県の河川の整備計画の見直し

既往最大降雨理論→生起確率理論

この考え方に基づき諏訪湖の計画高水位、護岸計画高さが決定し諏訪湖の護岸整備が始まる
平成 4 年までに整備された型式別護岸延長

護岸型式	波返し CO	低水式護岸	階段式護岸	自然石護岸	遠浅護岸	合計
延長 (m)	11,115	1,400	523	1,658	555	15,251

波返しコンクリート護岸の施工



波返し CO 護岸工事



波返し CO 護岸基礎工事

生態系に配慮した諏訪湖の水辺整備



整備された大和なぎさ



水生植物育成型なぎさ (fukinagisa)
令和 7 年 (2025 年) 8 月
諏訪湖クラブ

冊子の表紙

冊子の内容

A4 サイズ・カラー 32 ページ
印刷 500 冊
水辺整備の考え方の変化
モデル事業を実施 8 カ所
ふれあいなぎさ他
諏訪湖水辺整備マスタープラン
各ブロックの水辺整備の写真



以前の波返しの護岸



親水性を持たせたなぎさ

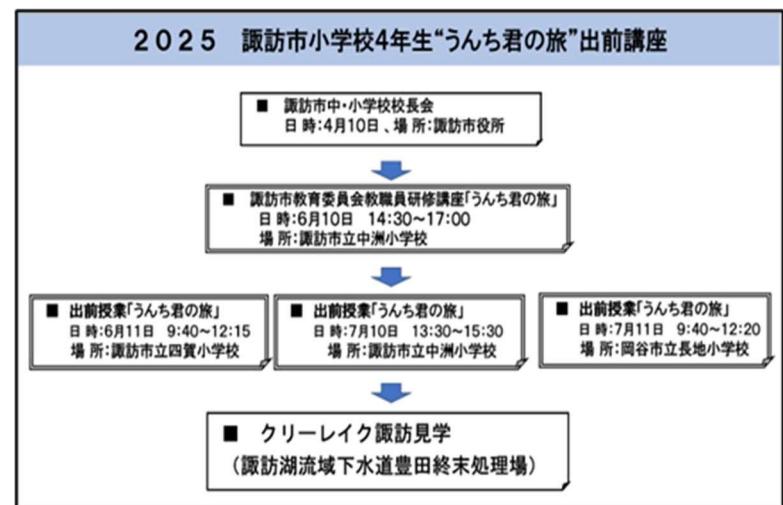
■水の学習「うんち君の旅」水の循環 トイレから学ぶ 理事 田代 幸雄

諏訪湖クラブでは、諏訪湖の水質改善にとって重要な役割を果たす「下水道」について、子どもたちに理解を深めてもらうため、平成4年度から諏訪市内の小学4年生を対象に出前授業を行っています。

この出前授業「水の学習『うんち君の旅』」は、下水道広報プラットホームと諏訪市の下水道職員の協力を得て、子どもたちが、下水のシステムや処理の仕組みを楽しく学べるプログラムとなっています。

令和7年度は、まず、4月10日に諏訪市小中学校の校長会で出前授業の趣旨の説明を行いました。また、市内の小学4年生の担任の先生を対象に、教育委員会主催の講座に組み入れてもらい、授業内容を具体的に紹介し理解してもらいました。

その後、6月11日に四賀小学校、7月10日中洲小学校で出前授業を実施しました。更に、岡谷市の長地小学校からも要請があり7月11日に授業を行いました。出前授業後は、各校とも「クリーンレイク諏訪」を見学し、下水処理の実際の様子や諏訪湖の水質改善について学習するという流れになっています。



以下に、教育委員会主催の講座及び各校の出前授業の様子を紹介します。

【諏訪市教育委員会教職員研修講座“うんち君の旅”】

教職員研修講座「うんち君の旅」は、担任の先生方に下水道の仕組みについて理解を深めていただくことを目的に、令和7年(2025年)6月10日午後、中洲小学校にて開催しました。

本研修は、子どもたちの授業を踏まえた内容構成となっており、まずGKP(下水道広報プラットホーム)の栗原講師によるクイズや会話形式の講義を通じて、下水道の基礎知識やその重要性を学びました。続いて、トイレットペーパーとティッシュペーパーの違いを確かめる実験、上水・下水・処理水・諏訪湖の水を用いたPAK試験、さらには「疑似うんち君流し」体験など、体験的な学びも取り入れています。研修の最後には、元長野日報記者の宮坂早苗さんにより、下水道がなかった時代の生活についてお話しいただき、現代の下水道の恩恵を改めて実感する機会ともなりました。

当日は、諏訪市内の小学校3校から6名の先生方が参加され、以下のような感想・意見が寄せられました。



下水道の話に聞き入る先生たち

参加者の感想・意見（一部抜粋）

- ・教科書には諏訪市の具体的な事例が掲載されておらず、本研修を通じて地域の状況を教材化する重要性を感じた。
- ・下水道の水の流れを視覚的に理解できたことで、日常の見え方が変わる体験となった。
- ・身近なものを教材として活用することにより、子どもたちが「自分ゴト」として環境問題を捉える仕組みを学べた。
- ・諏訪湖の水がきれいになってきていることを、ぜひ子どもたちにも伝えていきたい。

令和7年度に行われた水の学習出前講座

【四賀小学校 出前講座】

日時 6月11日 午前9時40分～12時15分

参加 四賀小学校の4年生（2組・39名）

この授業では、諏訪市下水道課の職員も参加し、下水道の役割や下水管の構造、污水の流れについて分かりやすく解説されました。授業後、児童たちは学んだことをもとに壁新聞を作成し、発表を行いました。

【中洲小学校 出前講座】

日時 7月10日 午後1時30分～3時30分

参加 中洲小学校の4年生（3組・90名）

授業は、四賀小学校と同様の内容ですが、3組の編成のため一部の講義やトイレットペーパーとティッシュペーパーの実験を3回行うなど工夫して進めました。

【長地小学校 出前講座】

日時 7月11日 午前9時40分～12時20分

参加 長地小学校の4年生（3組・89名）

中洲小学校と同様に、3組の編成でしたので、沖野先生にも講義を持っていただきました。また、岡谷市下水道課の職員も参加し、職員の指導のもと、子供たちは学校に設置されたマンホールトイレの組み立ても体験しました。各校とも「疑似うんち君流し」は、子供たちは大はしゃぎです。下水道の仕組みを楽しく学べる時間となりました。

○子供たちの感想

子供たちから、「水の恵みがいっぱいあってびっくりした」、「クリーンレイク諏訪のおかげで諏訪湖がおよげるほどにきれいな状態にもどってきてるので、すごいですね。」「下水道にゴミを流さないようにしたいです。ティッシュペーパーを流さないようにしたいです。」など、驚きや学びの声が多く聞かれ、下水道と地域の水環境についての理解を深める貴重な機会となりました。

○冊子「水はどこから来てどこに行くのか！」の活用

諏訪湖クラブでは、令和5年度長野県「地域発元気づくり支援金」を頂き、水の循環の仕組みをテーマにした学習冊子『水の学習～水はどこから来てどこに行くのか～』を作成しました。実際の授業の中でこの冊子を活用している先生方から、ご意見やご感想を伺いながら、今後さらに充実した教材となるよう改良を重ねていく予定です。



下水管の話に聞き入る子供たち

諏訪

「諏訪湖クラブ」岡谷・長地小で出前授業

長地小学校で「下水管の話」がありました。講師の経験豊富な教員が、下水管の構造や下水道の役割などをわかりやすく説いてくれました。実際に下水管模型を使って、污水がどのように流れ、どのように処理されるかを学ぶことができました。

4年生 諏訪湖浄化 大切さ知る

長地小学校で「下水管の話」がありました。講師の経験豊富な教員が、下水管の構造や下水道の役割などをわかりやすく説いてくれました。実際に下水管模型を使って、污水がどのように流れ、どのように処理されるかを学ぶことができました。

信濃毎日新聞掲載記事（長地小学校）



冊子「水の学習」の表紙

■ オオワシ「グル」を介して国際親善です

オーストラリアからのホームステイの15歳の女の子二人を7月11~14日と三泊四日で迎え入れました。日本の事に興味があり勉強したいとの事でした。我が家が諏訪湖の近くにあった事もあり遊覧船に乗って湖上に出たり朝夕の美しく変わる湖を見て感動していました。

今回、「オオワシと鳥きち爺さん」を英語版で演じたらどんな反応を示すかと挑戦してみました。

英語力の乏しいいたどいたどしい英語での語りでしたが気持ちを込めて演じたのが通じたのか拍手してくれました。オオワシ「グル」の記録の冊子や諏訪湖に関する冊子をプレゼントしたらとても喜んでくれました。

報告 宮澤みち子（下諏訪町）



紙芝居の一コマ

宮澤みち子さんは福の会（絵手紙の会）の会員として紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」の企画制作等お手伝いしていただきました。



宮澤みち子さん宅からの夕日

宮澤さんの住まいは下諏訪町富ヶ丘の諏訪湖が一望できるお宅で、諏訪湖の山端に沈む夕焼けはすばらしいです



宮澤宅で紙芝居「オオワシと鳥きち爺さん」の英語での上演会



紙芝居を前に宮澤さんとホームステーのフレアさんとカイさんを囲んで



原寸大のオオワシにびっくり



冊子；オオワシ「グル」の記録を手にして大喜び

■ 岡谷郷土学習館 市民講座 「諏訪湖の水生植物」 会長 沖野外輝夫

日時 7月12日（土）13:00～15:00

場所 岡谷郷土学習館

講演 諏訪湖の水生植物

講師 諏訪湖クラブ会長 沖野外輝夫

諏訪湖の水生植物の役割は大きく以下の二つに分けられます。

- ① 諏訪湖湖内に生息する生物の再生産の場の提供（魚介類の産卵、稚仔魚の成長の場）
- ② 湖内水質の安定化を図る水質浄化の場（陸域からの負荷を緩衝する場）

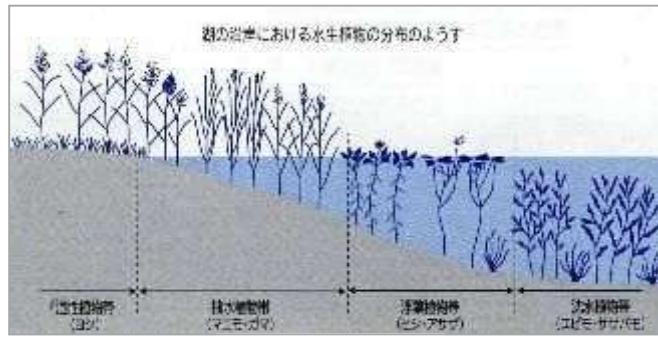
以上の二つの特性が総合されて、諏訪湖生態系の安定化が図るものと理解できます。

○陸域と水域にまたがる緩衝地域（エコトーン）

陸域と水域の生態系が相互に影響し合う重要な地域 → 下図

抽水植物帯-浮葉植物帯-沈水植物帯が水辺に沿って帶状に分布

水生植物の生育限界深度は春先の透明度の2～3倍



○水生植物の復活に向けて

平成の時代になってようやく水辺の重要性と水生植物への認識が変わり水辺再生計画と事業が行われることになりました。

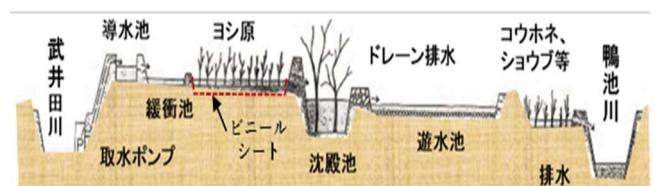
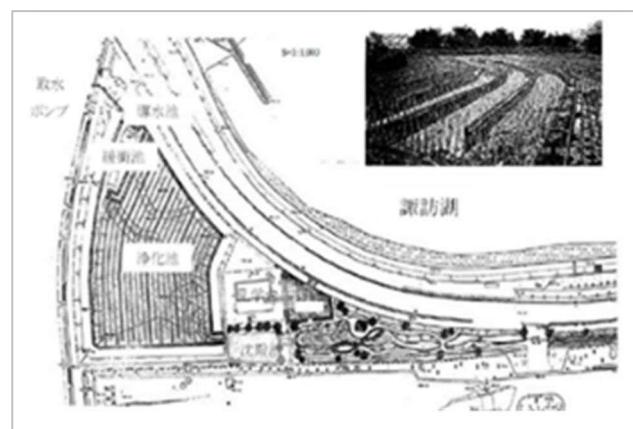
ヨシ原による水質浄化に関する実験

場所；クリーンレイク諏訪敷地内/西側

期間；平成5年（1993）～平成8年（1996）

武井田川の水をくみ上げ鴨池川に流す水路にヨシ原を造成し、諏訪湖水の浄化効果を調査。水路延長1,400m、幅2.5m、面積3,500m²にヨシ12万本を移植、5日間で水路を通過

させ、ヨシが水質浄化に繋がるかどうかの実験を行いました。



ヨシ原実験圃場の計画図

水質項目	SS	T-COD	s-COD	T-N	DIN	NH ₄ -N	NO ₃ -N	DTP	PO ₄ -P
植物生育期間	87.7	64.6	27.6	75.7	69.8	93.7	94.1	73.4	53.4
植物非生育期間	93.5	76.2	26.0	74.1	69.8	94.7	80.5	78.0	48.5
全期間 (3月-12月)	90.3	69.5	27.0	75.0	69.8	94.2	86.3	75.1	52.6

3月から12月まで、10日間隔で探水、水路幅2.5m、水路延長約1,500m、ヨシ植栽間隔30cm、の流入、流出総量(濃度×水量)で比較。ヨシの生育期間は4月から8月の5ヶ月。

○湖岸再自然化計画（諏訪湖水辺整備の実施）

諏訪湖水辺整備の基本的な考え方

- (1) 湖畔を一律に再改修するのではなく、沿岸地域と背後地の特性に配慮し、地域住民の要望にも配慮し、8ブロックに分けて、その地域の特性に合わせた再改修計画を実施する。
- (2) 湖岸の陸域だけでなく、湖がわの水域にも配慮した設計とする。
- (3) 既存のコンクリート護岸は覆土し、陸域と水域の連続性を再生する。
- (4) 水際の水生植物については抽水植物に関してはマコモを主に植栽するが、沈水植

物に関しては埋伏種子、根系による自然再生を基本とする。

○再自然化工事の先行工事実施箇所として6か所が選ばれ、平成5年（1993）より「人と鳥類・魚類との共生」を目指したなぎさ整備が始まりました。

- ① 高浜なぎさ（下諏訪町）
- ② 大和なぎさ（諏訪市）
- ③ ふれあいなぎさ（諏訪市）
- ④ 渋崎なぎさ（諏訪市）
- ⑤ 釜口なぎさ（岡谷市）
- ⑥ 横河崎なぎさ（岡谷市）



先行工事実施位置図

○渋崎なぎさの水辺整備



渋崎なぎさの整備工事 1994年



ヨシやマコモの生育状況

○自然再生しつつあるエゴへの対応

自然再生の可能性があるのが流入河川の河口部から湖内にかけて形成されていた高浜や砥川や横河川の河口部に広がるエゴの再生です。流入土砂が多い河川ですので現在も河口部が土砂で埋塞されないよう定期的なしゅんせつが行われています。うまく土砂の誘導ができれば以前にあった水生植物の豊かな、エゴの再生も可能です。



砥川河口には渡り鳥が訪れます

○諏訪湖の水質の変化と水生植物の対応

浮葉植物のヒシがなぜ増えたか

地域住民の環境の保全に対する意識が高まりとともに下水道の整備が進み、諏訪湖の水質が改善され富栄養型のプランクトンが減少し透明度が回復しました。

その結果、沈水植物であるクロモがヒシの群落に忍び寄っていて、ヒシ群落がクロモ群落に偏移することが考えられます。ヒシは春先の発芽、伸長を沈水植物の定着で阻害され、底質の砂泥化が進行することで分布域は縮小し、その生育域も本来の抽水植



浮葉植物ヒシとその下の水中に見えるのは沈水植物のクロモ

■ 諏訪湖スマートインターの供用開始

岡谷市と諏訪市にまたがる中央道諏訪湖サービスエリア（SA）への諏訪湖スマートインター（SIC）整備事業が完成し、7月27日午後3時より供用開始がされた。事業主体は両市、中日本高速道路、長野県の4者。令和3年（2021年）に着工し、ICへのアクセス道路（新設県道諏訪辰野線）を県、諏訪湖SAへの接続部分を中日本高速道路、アプローチ道路の上り線側を諏訪市、下り線側を岡谷市が建設してきた。

両市と中日本高速道路（NEXCO中日本）及び長野県は、当初令和6年（2024年）3月の供用開始を目指すとして整備を進めてきたが、諏訪市と県の施工箇所に想定外のもろい地質が確認され、追加の対策工事が必要になったため、供用開始が遅れていた。諏訪市が施工するアプローチ道路のボックスカルバート設置箇所に脆弱な地質が確認され、追加対策工事が必要になった。また、県が施工するアクセス道路の一部の表土を掘削したところ想定外の湧水があり、当初予定していた掘削置換ができないことが判明。追加の地質調査や、高規格土のうの設置などの軟弱地盤対策により開通が伸びていた。



県道諏訪辰野線施工区間



○ II期工事 辰野側（有賀峠）への接続について

上りランプから先約1km区間は、地盤が悪いところから、当初の計画ルートを山側に振り、トンネルの計画を進めるため地質調査を実施している。

■ 諏訪湖スマートインターの交通量を調べてみました

地域の活性化と生活環境の改善に繋がる諏訪湖スマートインターが令和7年7月27日午後3時に開通しました。

孫の夏休みの自由研究で短時間ですがその利用状況を調べてみました。

調査日時 令和7年8月6日(水) 午前7時~9時までの2時間



交通量調査位置図



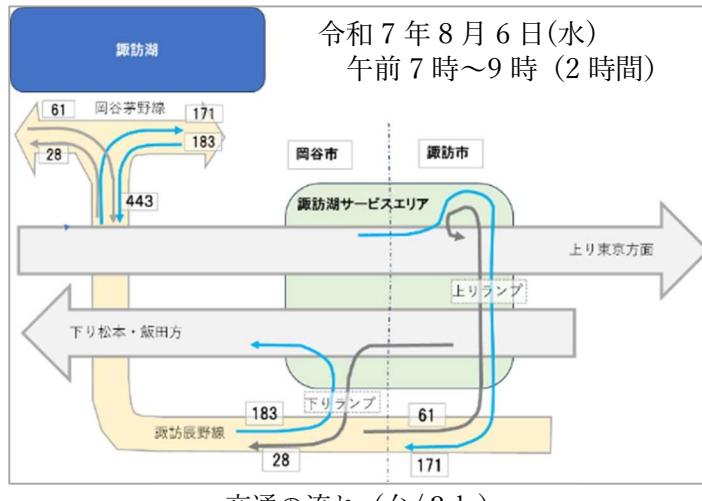
交通量調査状況



防音壁があり見通しが悪いと指摘された
旧道との交差点

時間	上り(東京方面)		下り(松本方面)	
	出	入	出	入
7時~8時	79(2)	33(4)	17(5)	102(14)
8時~9時	92(6)	16(0)	11(0)	81(9)
計	171(8)	61(4)	28(5)	183(23)
合計	232(12)		211(28)	
12時間	1,154		1,050	
1日換算	昼夜率1.31		2,887台	

注 ; ()内書きは大型車、換算の参考値は県道岡谷茅野線



交通の流れ(台/2 h)

交通の流れ

- 通勤に使われている車が多く特に松本↔諏訪間の交通量が多い。
- 下りランプの利用車211台の内、入りの車が183台と87%を占める。
- 上りランプの利用者232台の内、出の車が171台と74%を占める。
- 下りの入り、上りの出を諏訪方面と仮定すると諏訪方面利用者は354台となり80%を占める

新たな玄関口 順調なスタート

1日平均交通量 3400台

諏訪湖スマートIC開通1カ月

諏訪湖スマートインターチェンジの開通により、諏訪湖周辺の交通が大きく変化。特に朝夕の通勤通学による車の往来が増加している。また、地域活性化につながる観光客の流入も見受けられる。この開通によって、諏訪湖周辺の交通網がより効率的になり、地域の発展に貢献している。

諏訪湖スマートインターチェンジの開通により、諏訪湖周辺の交通が大きく変化。特に朝夕の通勤通学による車の往来が増加している。また、地域活性化につながる観光客の流入も見受けられる。この開通によって、諏訪湖周辺の交通網がより効率的になり、地域の発展に貢献している。

不明の80代女性を無事発見

エルザ(警備犬)と
響谷さん

に感謝状

諏訪署

長野日報令和7年8月28日掲載記事

■ 岡谷郷土学習館市民講座 諏訪湖の治水に繋がる釜口水門 理事 八幡 義雄

日時 令和7年8月9日（土）13:30～15:00

場所 岡谷郷土学習館

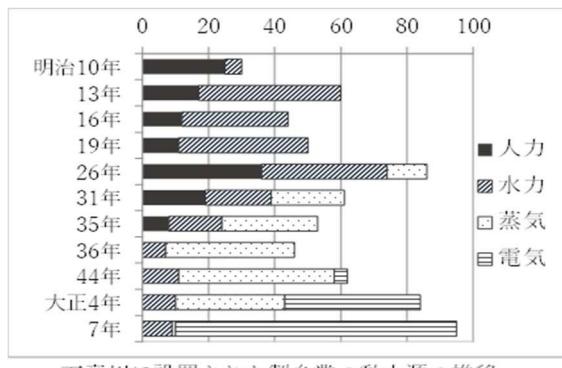
講演 諏訪湖の治水に繋がる釜口水門

講師 諏訪湖クラブ理事 八幡 義雄

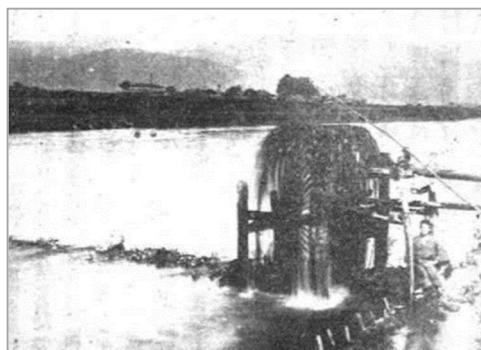
参加 20名

■ 諏訪湖の治水に繋がる釜口水門

江戸時代には諏訪湖や天竜川の治水に関しては、高島藩が天竜川に橋を架けさせないなど細部にわたることまで取り決めがされてきました。明治時代には、諏訪湖周辺の住民と天竜川の水を求める蚕糸家の人々とは、相反する利害関係を持っているという難しさもあって多くの問題を引き起こしてきました。特に蚕糸業の動力源として使用された水車や天竜川に設置された湛えが諏訪湖周辺の浸水被害の要因となっていることから、水害が発生する度に諏訪市豊田の住民が水車や湛えを取り壊すことが常態化し明治24年頃には流血騒ぎを、その後裁判に発展してしまいました。



その後砥川の支流の東保川に落合発電所が建設され明治34年から平野村（現岡谷市）にも給電されると動力源が水車から電気に徐々に変更されました。



天竜川に設置された水車 脇にいる人の大きさからかなり大きいことがわかります

大正2年には水害を受ける住民が1坪当たり1銭の寄付を集め、蚕糸家側に2万2千余円が支払われ19基の水車が撤去されました。

■ 初代釜口水門の建設

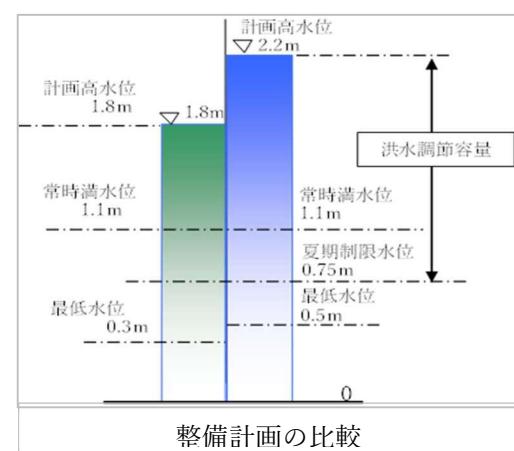
その後水害を受ける住民は明治44年に天竜川排水期成同盟会を結成し、洪水被害の抜本策として水門の建設を強く要望しました。この要望を受け、県は水門により放流水をコントロールできる初代の釜口水門の整備が始まり、昭和11年に完成することになりました。

390トン流入、190トンカット、200トン放流の洪水調節を出来るものでした。

水門の建設により大幅に洪水被害が減少しましたが、昭和25年に発生した大雨による浸水被害は床上浸水316戸にも及び、被害住民がトラックに乗り釜口水門に押しかけることもありました。

■ 2代目釜口水門の建設

建設省（現在国土交通省）の指導を受け、長野県は昭和42年（1967）河川の整備計画についての見直しを行いました。その内容は、それまでの河川整備計画が「既往最大降雨理論に拠っていたものから「生起確率理論」に拠ることへの変更でした。これまでの整備計画では、被災を受けるたびに計画規模が上がってしまうことが問題となっていましたが、過去の降雨記録をデータ化し将来の降雨強度を推計する「生起確率理論」の採用により、被災を長期に予防することが可能となりました。これにより諏訪湖の計画高水位及び護岸



計画高さが決定し、諏訪湖の護岸整備が昭和42年より始まりました。

また、昭和48年（1973年）には、金口水門の改築の検討がされました。流入量1,600トン、1,000トンをカットし最大放流量を600トンとするもので、天竜川もこの水量が流せるよう改修を行うことが決まりました。

新旧の比較			
区分	単位	旧	新
流入量	m ³ /s	390	1,600
放流量	m ³ /s	200	600
洪水調節量	m ³ /s	190	1,000
計画規模 1/100年 二日雨量 233mm			

新しい水門は、旧水門の約80m上流に造られることが決まり、昭和55年（1980）7月に着工されました。この水門は、3つの水門（ゲート）、閘門式を持つ舟通し水門、魚道からなりたっています。9年間に総事業費102億円を投入し、昭和63年（1988）7月18日の金口水門の完成式を迎えることが出来ました。ふだんは水門上部から水を放流しています。



完成間近の金口水門、奥に初代金口水門が見えています

金口水門放流量の推移

昭和63年（1988）の放流開始当時は、天竜川下流の改修状況を考慮して、300トンを最大放流限度としました。その後、平成18年（2006）7月豪雨災害を受け、現在は、下流の天竜川の改修工事の進み具合を考慮して、最大で430トンの放流を行う制御を行っています。なお、国により、金口水門の500トン放流が可能になるよう天竜川下流の河川改修が進められています。

放流量の推移

- 昭和11年 200トン / 初代金口水門完成
- 平成4年 300トン / 二代目金口水門完成
- 平成13年 400トン / 下流の護岸整備見合い
- 平成22年 430トン / 平成18年災害復旧工事

諏訪湖の湖面管理

湖面の水位の管理については、諏訪湖の管理者である長野県が、国土交通省中部地方整備局の承認を得た金口水門操作規則（湖面管理）により運用されています。

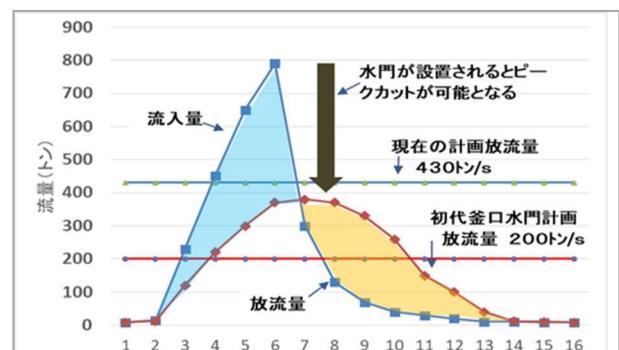


諏訪湖の管理水位図

基準の高さを決め、常時満水位は1.1m、計画高水位は2.2m、洪水の発生する危険性が高い洪水期（6月20日～10月15日）には、水位を35cm下げて制限水位0.75mと決め、水門のゲート操作により諏訪湖の水位を調整する管理を行なっています。

洪水調節の仕組み

洪水の可能性が高いとされる洪水期には、諏訪湖の水位を洪水時制限水位（35cm下がり）に下げておき、洪水時には一時的に諏訪湖に貯水し、大量の水が直接下流に流れないようにして下流の洪水被害を防ぐようにしています。またその後は、下流の流下能力に見合う放流を速やかに行い、上流の浸水被害を軽減しています。



洪水調節をする仕組み

■ 能登半島地震から学ぶ地域防災

公立諏訪東京理科大 菊地輝行准教授

令和7年8月27日(水)午後1時～午後5時

第1部 基調講演 「長野県の土砂災害対策」

講師 長野県建設部砂防課長 森田 耕司

第2部 令和6年度能登半島地震の被害を知る

能登半島地震の災害概要

国際興業(株)国土保全部 西村 智博部長

能登半島地震により発生した崩壊と地質的要因

京都大学防災研究所 松澤 真 准教授

地域防災による「住み続けられる街づくり」とは?

香川大学創造工学部 野々村 敦子 教授

第3部 諏訪地域と能登半島の共通性

公立諏訪東京理科大学 工学部 菊地 輝行 准教授

第4部 ワークショップ

教室A 諏訪市の地域災害について

湖南地区の土石流災害 八幡義雄

教室B 茅野市と周辺地域の地域災害

教室C 豊かな自然と観光を情報工学で融合

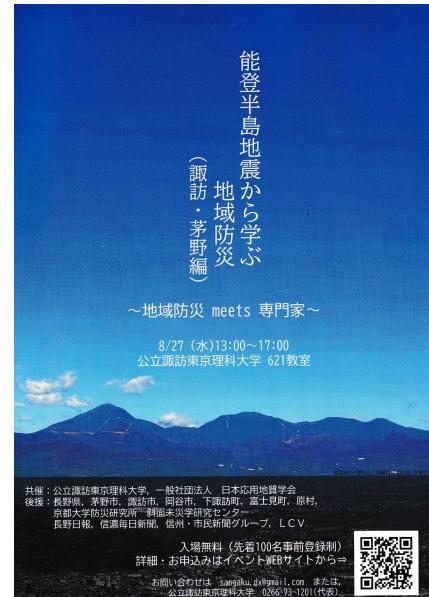
前日及び次日の現場調査を八幡が案内した

8月26日(火)午後1時30分～

松澤真准教授他を諏訪市西山地区に展開している水位計設置位置を案内 途中露頭している岩石を調査

8月28日(木)午後1時～応用地質学会災害地質研究部会会員

宮川の災害伝承碑→昭和19年発生した南海トラフ地震の災害伝承碑（豊田公民館）→岡谷市小田井沢災害伝承碑（平成18年7月豪雨災害、死者7名）小田井沢ダブルウォール砂防えん堤に興味を示された



全体会議



ワークショップの様子

■ 戦時中の昭和 19 年に発生した地震 東南海大地震記録集（東南海地震体験者の会）より

この地震が発生したのは太平洋戦争が激化していた昭和 19 年（1944 年）であった。市民に密着していた南信日日新聞は新聞の統廃合のあおりを受けて休刊に追い込まれ、長野県下唯一の信濃毎日新聞だけであった。この信毎と中央各紙は軍の厳しい報道管制を受け、この地震の詳細、真相を報道することはできなかった。朝日新聞の翌日の記事はそれを示している。

この国民的大災害は最優先に報道すべきであったのに翌 12 月 8 日の第一面は、大詔奉載日（開戦記念日）の天皇軍服姿の写真と戦争記事で埋め尽くされていた。

地震記事は三面最下段に戦争記事に隠された形で載っただけ。その小記事も二日後には各新聞紙面から消えた。諏訪の住民は新聞、ラジオからこの地震の真相を知ることはできなかった。

元気盛んな青壯年男子のほとんどが軍に招集されて戦地や内地で軍務に服していた。その為、この地震を知らない人が多かった。地震発生後の 9 カ月後に、日本は無条件降伏した。人々が長期の戦争によって生活が困窮していたので、その生活を立て直すのに精一杯であったなどの原因が重なり合って、この地震調査への機運はすぐに生まれなかつた。

19 年地震から 40 年後に木曽郡王滝村を震源とする長野県西部地震が発生したことが契機となり太平洋戦争末期の昭和 19 年に起きた地震の真相を調べ後世に伝えることを目的とする組織「東南海地震体験者の会」が発足し、多くの体験者などに聞き取りをしたことなどをまとめ、東南海大地震記録集を発行した。

諏訪市湖南地区の聞き取り調査の一部

小池セツ（田辺、当時 20 歳）お墓の横の畑で大根を採った後片付けしていた。お墓の石塔はガラガラ音を立てて倒れた。家に帰ると便所はよろんでおり、建具はほとんど倒れ、家は少し傾いていた。

伊藤みち（田辺、当時 19 歳）空がゴーゴーと鳴って来ました。家の前の畑に行ってはいつくばつた。隣の家の二階が横に倒れて地面についた。中央製糸（現ハーバー電子）から黒い土煙が。寄宿舎は潰れ、糸取りしていた人は倒れた建物からはい出した。

吉澤きくの（田辺、当時 46 歳）かや家であった家は壁が落ち、戸、障子が飛んだ。仏壇が落ち、畳がめくれ上がり夜は外にネコを敷いて寝た。大工に家を直してくれ頼んだら壊した方がよいと言ってなかなか応じてくれなかつた。当時の戸数は 85 戸くらいでほとんどの家の壁が落ちあるいはよろんだ。

松見勝（大熊、当時 29 歳）大熊バスター・ミナル近くの家が倒れた。柱がゆがんだり壁が落ちたりした家 40 戸に復旧用配給物資を特配した。



昨日の地震
震源地は遠州近海
復に告布工著たり工ちにり傷いではた害良
旧はを、し。出場に小、者たは防らは野
を大発市災い諷して消火諷をの避災し諷長
進工し民害と訪早はしが訪出で難訓い訪野
め左た一復こ署く自止あ市しわ訓練が湖県
た官な復資には組たたののかをで同にの
お、旧材は被完織。が数みにや各地限地
員八のを害了が被、力で重つ工方ら震
し日布配大のし繩害直所あ軽て場でれ被

昭和 19 年 10 月、日本海軍はフィリピン島レイテ沖海戦で敗れ、戦艦武藏など三隻、空母四隻を失い、連合艦隊は壊滅し、制空権、制海権を失った。

最後頼みの綱である本土の航空機だけになっていたがその航空機工場が地震で全滅し、9 カ月後の昭和 20 年 8 月に無条件降伏となつた。

○昭和 19 年 12 月 7 日に東南海沖に発生した地震で「昭和東南海地震」と呼ばれる。

その後の調査で実態が明らかになった。

地震名 昭和東南海大地震

震源 三重県熊野灘沖 20km の海底

震源と諏訪との距離約 320 km

規模 マグニチュード 7.9

発生時刻 昭和 19 年 12 月 7 日午後 1 時 35 分ころ

被害 死者・行方不明者 1,223 人

震源から 320 km 離れた諏訪地域は震度 6 一諏訪地域は異常震域

○平成 14 年（2002）「東南海地震体験者の会」が第 9 回の信毎賞を受賞しました

東南海地震体験者の会は戦時下の昭和 19 年に発生した東南海地震の諏訪地方における実態調査をし、県内の防災対策に重要な問題提起をしたことが評価され、第 9 回信毎賞を受賞しました。

この受賞を機に平成 14 年 12 月 7 日（地震発生日時）に諏訪市豊田公民館前と諏訪市役所駐車場東に災害伝承碑が建立されました。

また、諏訪市豊田公民館前の伝承碑は、国土地理院が、先人が伝える災害の教訓「自然災害伝承碑」を地図で発信として進めている災害伝承碑として登録されました。

○令和 7 年 9 月政府の地震調査委員会が 30 年以内の南海トラフ地震「60%～90%以上」と修正

南海トラフ地震は約 90 年から 150 年ごとに繰り返し起きており直近の昭和南海地震（1946 年 M8.0）からは 79 年となる。平均発生間隔を 88.2 年としたうえで今後 30 年以内の確立を 80% 程度としていたが発生確率を「60%～90%以上」に見直したと政府の地震調査委員会が 9 月 25 日に発表

・過去 300 年間の発生状況

1707 年宝永地震

1854 年安政之東海南海地震（約 2 時間の間隔で発生）

1944 年（昭和 19 年）昭和東南海地震

1946 年（昭和 21 年）昭和南海地震

被害想定（令和 7 年 3 月政府公表）

死者 約 29 万 8 000 人

全壊・焼失 約 235 万棟

被害総額 約 292 兆円

○海洋研究開発機構が水圧計により大地震の予測が可能に

現在、南海トラフ沿いに設置されている海底地震・津波観測網の水圧計の微小変位を観測することにより地震の予測に生かすシステムが開発されたと発表

今後、大地震や津波の発生リスクを評価するのに役立つと期待される。



諏訪市豊田公民館前に設置された
災害伝承碑



長野日報掲載記事

■諏訪建設事務所歴代所長会議に沖野会長をお呼びして開催 理事 八幡 義雄

諏訪建設事務所に異動で新しい所長が赴任した年は、歴代の所長が集まる「諏訪建設事務所歴代所長会議」を開催しています。沖野外輝夫会長が第32回信毎賞を受賞されたのを記念し、この4月に赴任した木下所長にお願いして、例年ですと秋に開催している会を早めに開催しました。

日 時 令和7年8月29日(金)午後3時~

参 加 平澤幸雄、北原正義、西原義久、笠井明、八幡義雄、清水孝二、小松誠司、木下秀樹

現地調査 令和7年7月27日開通した諏訪湖スマートインター→ヨシ原実験圃場→諏訪湖の水生植物
及び水辺整備→諏訪建設事務所（事務所の事業概要）→信毎賞受賞お祝いの会

○諏訪湖の水辺整備に至る経緯

平成5年から始まった本格的な諏訪湖の水辺整備の主な立役者は、諏訪湖の水辺整備に先立ちヨシ原の水質浄化に繋がる実験を行い生態系に配慮した諏訪湖の水辺整備を専門的立場から指導を頂いた沖野外輝夫会長とその事業の必要性を理解して、その事業を積極的に推進した当時の諏訪建設事務所平澤幸雄所長です。その経緯を冊子「ヨシ原による水質浄化に関する実験」「生態系に配慮した諏訪湖の水辺整備」にまとめてみました。

(1) 「ヨシ原による水質浄化に関する実験」

A4サイズ 20ページ

ヨシ原の生育状況

ヨシ原実験圃場内の水質の変化

(2) 「生態系に配慮した諏訪湖の水辺整備」

A4サイズ 32ページ

地域から学ぶ大切さ 平澤 幸雄

諏訪湖をきれいにする取り組み 北原 正義

諏訪湖の植生に配慮した水辺整備に至るみちのり

諏訪湖の水辺整備の状況

生態系に配慮した諏訪湖の水辺整備



令和7年(2025年)8月
諏訪湖クラブ



諏訪湖サービスエリアとスマートインターが見下ろせる高台で

清水 笠井 八幡 沖野 平沢 西原 小松 木下
孝二 明義 雄義 外輝 幸雄 義久 誠司 秀樹
夫



諏訪湖に向って下る諏訪湖スマートインター

諏訪湖湖畔に出られ、観光面からも期待されています

■ 地域から学ぶことの大切さ

元諏訪建設事務所長 平澤 幸雄(長野市)

転勤で各地を回る私たちは、その地域のことを知らずに仕事を始めることになります。そこで私は「地域の仕事をするには、地域から学ぶ」ことが何より大切だと考えました。諏訪地方の特徴、歴史、地質、自然、環境、動植物などの知識を職員みんなで学ぶことから始めました。

学習の中心は諏訪湖でした。水質をきれいにする問題については、信州大学の沖野先生や桜井先生に何度も相談に行きました。特に桜井先生には、ヨシ原による水質浄化の試験場の作り方を教えていただき、私も先生と一緒にヨシを植える体験をしました。

地域の学習は、漁業組合、釣り船組合、観光協会、まちづくり懇談会など、様々な人たちの意見を聞くことから始めました。諏訪湖の仕事をするなら、そこに住んでいる魚や貝のことも知るべきだと考え、所長室に水槽を持ち込んで実際に魚や貝を飼って観察しました。名前を覚え、生態系や食物連鎖を観察することで、諏訪湖のことがよく分かるようになりました。「豊かで美しい環境と諏訪の躍進を目指して」をスローガンに、職員、測量会社、建設会社など広い範囲の人たちを集めて研修会を開きました。約200名が参加し、信州大学の田中名誉教授からは地質構造を、大前水産試験場長からは魚類について、野鳥の会の野澤会長からは野鳥について、水沼学芸大講師からは水生植物について学びました。野鳥の会諏訪支部長の林正敏さんからは野鳥と共生する工事の工夫を学びました。

歴史的な第一歩 - 諏訪湖なぎさ復元への挑戦

当時は環境への対応が大きく変わる時期でした。土木工事、特にコンクリート工事が自然破壊だと批判を受けていました。諏訪湖でもコンクリートの波返しが批判され、「あれを壊せ」と自然団体や市民が諏訪建設事務所に押しかけて来ました。時代の流れでコンクリート批判が高まっているのも事実で、何か対応策を考えなければならないと困りました。

職員みんなで知恵を出し合った結果、画期的なアイデアが生まれました。コンクリートの波返しを土砂で包み込み、見えないようにするのです。コンクリート波返しを核として覆い、治水上の安全と本来の機能を保ちながら、昔の自然な状態に復元し、野鳥や魚が住みやすく、景観も良くしよう。さらに水質浄化も期待してヨシやマコモを植え、水生植物の再生を図ることにしました。諏訪湖の貯水容量を保つために、上川をはじめとする各河川から諏訪湖に流出した土砂を浚渫（しゅんせつ）して使う案に決まりました。

なぎさ完成後、愛称を公募して「ふれあいなぎさ」と名づけられ、花火大会や各種イベント広場として利用されています。その後「なぎさ日本百景」にも選定されています。

おわりに

私は「人工なぎさ」を諏訪湖の水辺整備の試験地と考えています。治水を基本に置き、水質浄化、景観、水生植物、野鳥や魚類などへの影響を調査し続けることで、「人間と自然との共生」がどうあるべきかを検証する場所として位置づけています。

様々な事業実施にあたって、信州大学の沖野先生にはその都度ご指導をいただき、本当にありがとうございます。また、まちづくり懇談会の皆様と一緒にドイツで開催された「日独環境まちづくりセミナー」に10日間参加したことは、その後の行政マンとしての仕事に大いに役立ち、今でも感謝を忘れません。

この諏訪湖なぎさ復元の取り組みは、環境と開発の両立を目指す新しい土木事業のモデルとなりました。地域の人々と協力し、自然を大切にしながら必要な工事を行うことで、人と自然が共に生きることができる美しい環境を作ることができます。

お詫び、紙面の関係でAIにより修正をさせて頂きました。



なぎさ日本百景指定記念碑
ふれあいなぎさの揮毫は平澤幸雄さん

■ 諏訪湖をきれいにする取り組みについて

元諏訪建設事務所長 北原 正義（伊那市）

この度は信毎賞の受賞おめでとうございました。諏訪湖浄化の歩みからすれば当然受けるべき人が受賞されたということで心からお祝い申し上げます。

私は2000年4月から2004年4月まで諏訪建設事務所に在職しましたが、この間、諏訪湖浄化の各種事業には絶えず沖野先生のご指導をいただきました。諏訪湖流域下水道の整備やコンクリート波返し護岸の自然なぎさ化など技術的にご指導いただいたのは平澤幸雄さん達先輩所長でしたが、私の時代は諸先輩達の実績に裏打ちされたソフト面で沖野先生からご指導を賜りました。

「民学官」協同の諏訪湖浄化を合言葉に、「諏訪環境まちづくり懇談会」等の住民団体やセイコーエプソン、三協精機（当時）等の産業界と諏訪郡6市町村や諏訪地方事務所（当時）、諏訪建設事務所を結びつけていただいたのは信州大学臨湖実験所（当時）すなわち沖野先生がありました。諏訪湖浄化を錦の御旗にすれば誰もが異論無く集まってくれました。

平成13年（2001）年5月25日～27日に開催された「第4回日独環境まちづくりセミナー」「第1回湖沼浄化シンポジウム in 諏訪」では先進国からの意見発表や全国の取り組みの紹介などを諏訪湖流域の住民が聴講し、諏訪湖浄化の取り組みに大きなインパクトを与える機会をつくっていただいたのも沖野先生でした。

泳げる諏訪湖を取り戻そうと「諏訪湖で泳ごう2000」では奥様を連れ立って応援に駆け付けられたり、諏訪湖走友会が諏訪湖の浄化をアピールする為に天竜川を遠州灘までタスキをつなぎリレーマラソンでは出発の号砲を沖野先生が鳴らして下さいました。学術的な指導から住民主催の事業まで幅広く参加されていた先生は諏訪地域では誰からも知られる顔であり、諏訪湖浄化のシンボルでもありました。

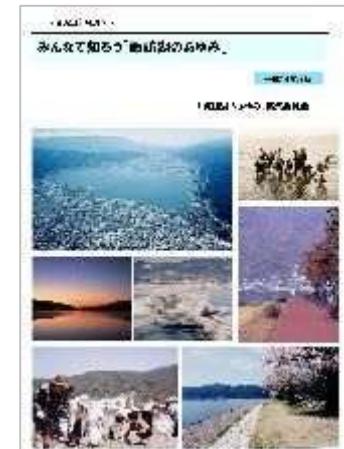
諏訪湖ふれあい駅伝、諏訪湖チャリティーウォーク、諏訪湖ふれあい祭り、冊子「みんなで知ろう諏訪湖のあゆみ」の発行、諏訪湖アダプトプログラム等様々な機会で多くの皆さんと諏訪建設事務所の交流が実現しました。これらの交流が当時の諏訪建設事務所が諏訪地域から頂いた評価に貢献したのではないかと少しの自負を持ちますが、これらはすべて陰に陽に沖野先生から頂いたご指導の賜物であり心から感謝申し上げるところであります。

沖野先生にはまだまだお元気でご活躍いただき、行事として泳げる諏訪湖があるだけでなく、子供から大人までが日常的に湖水浴を楽しめるような諏訪湖を取り戻していただきたいと切に願うところであります。

沖野先生本当にありがとうございました。これからのご活躍をご期待申し上げます。



泳ぎ終えた参加者



冊子「みんなで知ろう諏訪湖のあゆみ」

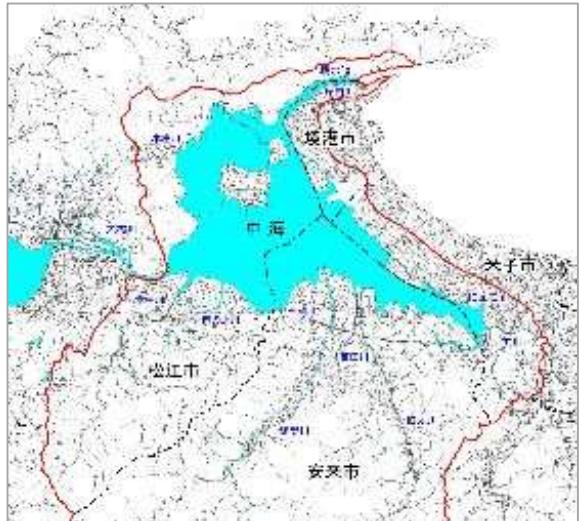
2025年7月吉日

北原 正義

平澤幸雄さん、北原正義さんの寄稿文は、冊子「生態系に配慮した諏訪湖の水辺整備」に掲載された文を引用させていただきました。

井上祥一郎監事が精力的に進めている、湖沼水環境保全に関する自治体連携「中海」の紹介です

湖沼法に基づく中海の水質保全計画の概要					位置図														
項目	単位	内容																	
県名		島根県・鳥取県																	
関係市町村		4市																	
湖の面積	k m ²	85.68	日本5位																
湖の周囲	k m	105																	
最大水深	m	18.4	平均水深	8.4															
貯水量	千m ³	470,000																	
流入河川		20河川																	
流出河川名		大橋川																	
流域面積	k m ²	595.0	流城市町村	4市5町1村															
常時満水位	m	0	滞在日数	0.4	年														
水質保全計画																			
湖沼法適用	年	昭和64年（1989）1月			【参考】中海の歴史 縄文 海進期に宍道湾を形成 平安 弓ヶ浜砂州により中海ができた 江戸 1635 淡水湖のとして宍道湖誕生 S34 1959 水質悪化により遊泳禁止 S38 1963 国営中海土地改良事業開始 S49 1974 淡水化の中浦水門建設開始 S63 1988 淡水化工事延期 H14 2002 淡水化事業中止を決定 H21 2009 1度も水門として機能することなく撤去														
湖沼法	期	第8期水質保全計画																	
期間	年度	令和6年度～令和10年度																	
水質目標値	中海（第8期）																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>目標値R10</th><th>現状（7期）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>COD</td><td>75%値</td><td>4.4</td></tr> <tr> <td></td><td>平均値</td><td>3.4</td></tr> <tr> <td>全窒素</td><td>0.46</td><td>0.44～0.53</td></tr> <tr> <td>全リン</td><td>0.046</td><td>0.042～0.057</td></tr> </tbody> </table>					項目	目標値R10	現状（7期）	COD	75%値	4.4		平均値	3.4	全窒素	0.46	0.44～0.53	全リン	0.046
項目	目標値R10	現状（7期）																	
COD	75%値	4.4																	
	平均値	3.4																	
全窒素	0.46	0.44～0.53																	
全リン	0.046	0.042～0.057																	
主な取り組み	1) 水質の保全に関する事業 生活排水対策 廃棄物処理施設の整備 湖沼の浄化対策 2) 水質保全に繋がる規制 工場・事業所排水対策 畜産業に係る汚濁負荷対策 漁業に係る汚濁負荷対策 3) 流出水対策 米子湾流域 4) その他、調査研究 緑地の保全、自然環境の保護 総合的な流域管理の取り組み 水産資源の利活用による水質保全 ラムサール条約湿地の保全 住民の理解と協力 環境学習及び普及啓発活動																		
課題	今後は、長期ビジョンの実現を目指して、多様な生物が生息する豊かな汽水域生態系の保全。再生の取組みの推進、気候変動への対応に向けた調査研究などの新たな取組みとともに、引き続き生活排水対策や山林及び市街地などからの流入負荷対策（流出水対策）に取り組んでいく必要があります。また、効果的な水質保全策を立案するため、湖沼の水質メカニズムの解明に向けた調査研究に引き続き取り組んでいくとともに、気候変動が水質に及ぼす影響とその対応についても、検討が必要です																		



井上祥一郎監事が精力的に進めている、湖沼水環境保全に関する自治体連携「宍道湖」の紹介です

湖沼法に基づく宍道湖水質保全計画の概要					位置図		
項目	単位	内容					
県名		島根県					
関係市町村		2市 松江市、出雲市					
湖の面積	k m ²	79.1	日本7位				
湖の周囲	k m	47	淡水湖ではなく汽水湖				
最大水深	m	6.0	平均水深 4.5				
貯水量	千m ³	360,000					
流入河川		斐伊川水系 流入河川30河川					
流出河川名		大橋川、宍道湖と中海は連結汽水湖					
流域面積	k m ²	1,288.0	流域市町村 3市12町1村				
常時満水位	m	0	滞在日数 110	日			
水質保全計画							
湖沼法適用	年	昭和61年（1986）10月			【参考】宍道湖の歴史		
湖沼法	期	第8期水質保全計画			縄文 海進期に宍道湾を形成		
期間	年度	令和6年度～令和10年度（策定中）			平安 弓ヶ浜砂州により中海ができた		
水質目標値	宍道湖（第8期）				江戸 1635 淡水湖のとして宍道湖誕生		
	項目	目標値R10	現状（7期）		S34 1959 水質悪化により遊泳禁止		
	COD	75%値 4.6	4.6～6.5		S49 1974 淡水化の中浦水門建設開始		
		平均値 4.0	4.4～5.4		S63 1988 淡水化工事休止		
	全窒素	0.46	0.43～0.53		H21 2009 1度も水門として機能することなく撤去		
	全リン	0.039	0.044～0.059				
主な取り組み	1) 水質の保全に関する事業 生活排水対策 廃棄物処理施設の整備 湖沼の浄化対策 湖内対策の実施 浮遊ごみの監視及び回収						
	2) 水質保全に繋がる規制 工場・事業所排水対策 畜産業に係る汚濁負荷対策 漁業に係る汚濁負荷対策						
	3) 流出水対策 農業用排水路の泥上げ 市街地路面、側溝清掃 治山、砂防えん堤の整備 忌部川、山居川流域流出水対策						
	4) その他、調査研究 緑地の保全、自然環境の保護 総合的な流域管理の取り組み 水産資源の利活用による水質保全 ラムサール条約湿地の保全 住民の理解と協力 環境学習及び普及啓発活動						
課題	長期ビジョンの実現を目指して、多様な生物が生息する豊かな汽水域生態系の保全。再生の取組みの推進、気候変動への対応に向けた調査研究などの新たな取組みとともに、引き続き生活排水対策や山林及び市街地などからの流入負荷対策（流出水対策）に取り組んでいく必要があります。また、効果的な水質保全対策を立案するため、湖沼の水質メカニズムの解明に向けた調査研究に引き続き取り組んでいくとともに、気候変動が水質に及ぼす影響とその対応についても、検討が必要です。						

理事会報告

第174回 令和7年7月20日(日)午前10時00分~

場所:スマートレイク事務所

出席者:沖野、金子、長崎、田代、山村、市川、鴨志田、池田
高木、八幡 11人

1. 信毎賞授賞式 7月4日長野市ホテル 21

応募 111件 受賞 3件

諏訪湖クラブ会長 沖野外輝夫

2. 信毎賞祝賀会(案)

祝賀会 10月2日(木) 諏訪市「ぬのはん」

午後5時30分受付開始

午後6時00分開演

実行委員:小林聖仁、長崎、八幡、田代、山田、高木

3. 水の学習

うんち君の旅

下水道展(大阪市) 7月30日

第175回 令和7年9月21日(日)午前10時00分~

場所:スマートレイク事務所

出席者:沖野、八幡、田代、金子、田辺、池田 7人

農家の収穫、他のイベントと重なり少ない参加者となりました。

- 1) びわこのひ・世界湖沼の日(みんなで大津)からの連絡について。

諏訪湖創生ビジョン、諏訪湖環境研究センターのホームページとリンクされました

- 2) 高橋潤会員(長野県みらい会議)からのお知らせ

- 3) 諏訪湖の日イベント(諏訪湖を楽しく学ぼう

10月5日(日)午前9時~午後1時30分

研究発表会 講演;諏訪湖魅力を訪ねる会)

講師:諏訪湖クラブ会長 沖野外輝夫

- 4) 「信毎賞」受賞祝賀会準備状況について

参加者数 72名 内諏訪湖クラブ 30名

当日の役割の確認

集合 午後4時45分 受け付け 午後5時30分

開演 午後6時~ 終了午後8時頃

当日配布冊子 3冊

パネル (1)信毎賞授賞式の写真

(2)諏訪環境まちづくり懇談会

- 5) その他

諏訪湖クラブニュース No.45号 令和7年10月発行

企画・編集・発行 諏訪湖クラブ事務局

発行人:沖野 外輝夫 TEL/FAX 0266-58-0490

E-mail e-suwa-info@lake.gr.jp

<https://suwako-club.com/about.html>

編集人:八幡 義雄

次号46号は令和8年1月の理事会にて発行予定です

事務局日誌 令和7年7月~

7/4 第32回信毎賞授賞式

7/5 諏訪臨湖実験所一般公開

7/10 諏訪市中洲小学校/水の学習

7/11 岡谷市長地小学校/水の学習

7/11 諏訪実業高校防災学習会

7/12 岡谷郷土学習館講演/沖野会長

7/23 諏訪市公民館/牛伏砂防学習会

7/18 諏訪中地域学習会(諏訪湖)

7/30 下水道展事例発表/田代理事

8/9 岡谷郷土学習館講演/八幡理事

8/20 諏訪湖通信85号発行

8/26 諏訪湖しゅんせつWG

8/27 諏訪東京理科大防災シンポ

8/29 歴代諏訪建所長会議/沖野会長

9/22 諏訪湖通信86号発行

9/27 西山水位観測システム報告会

9/30 諏訪湖しゅんせつWG

10/2 沖野会長信毎賞受賞を祝う会

10/5 諏訪湖の日 諏訪湖環境研究セ

ンター公開/沖野会長講演

10/18 講演;スポーツ報道/山田雄一

新入会員さん紹介

○よろしくお願いします

毛利 正道さん

岡谷市山下町 1-21-24-101

藤森恵吉さん

諏訪市渋崎 1792

編集後記

中学生の夏休みになれば毎日山に入り蝶を追っかけまわし、幼虫を飼っては、母親からいやがられました。高校では生物部に籍をおきプランクトンの観察調査をすることになりましたが蝶に出会うとわくわくしたものです。

今回はチョウの知恵についてのお話です。アゲハチョウの食草はカラタチか山椒の葉ですが、いずれも棘のある木で外敵に対しての防御をしているようです。我が家のかラタチにも産卵し育っていますが、この時期(9月中旬)にまだ幼虫でいる個体があります。葉が枯れるまでに少なくともさなぎになる必要があります。羽化の時期を来年に持ち越すと決めたら寒い冬を越さなければいけません。その時はさなぎの殻を厚くする知恵をもっています。いつも小さな生き物の知恵には感動します。